

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

孟子何報
七

東
大
学
图
书
馆

1
5
28

為震災復興
宇都宮縣民寄贈
大正十二年



地方凡例録卷之七

注連上真加令浪降河細物幸

附水車濫觴

東京帝國大
學經濟學部
研究室之印

中大長
藏書印

注連上真加令浪降河細物幸
或水車濫觴
中長長長
注連上真加令浪降河細物幸
急度降
全向注連上真加令浪降河細物幸
注連上真加令浪降河細物幸

運上と云ふ能留をわりの法を何と云ふか
乳牛可算かを何物と云ふ地と云ふ標は其の運上と云ふ
運上算が亦の運上算より多き事なり何れは其の
青地といふに換標が亦と云ふ事なり又その二其の
市地法を算する事なり一其の一杯南實地を算する
印の之を法に換標が亦といふ事なり何れは其の
は其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載
定納の事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
其の標の時と云ふ法に換標が亦といふ事なり一其の
並其の標の時と云ふ法に換標が亦といふ事なり一其の

其年比共候に月々候に其載候事なり一其の算載候事
上米と云ふ一派の算載候事なり一其の算載候事
一其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
其後の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事

水車運上

水車運上候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
一其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
一其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
一其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事
一其の算載候事なり一其の算載候事なり一其の算載候事

神一勿備事於水より碓氷のありは津の穴大信
水車水車の中を流るる水は又信より碓氷のありは津の穴大信
約款を以て世道に於て是れ水車は碓氷のありは津の穴大信
實加ふべし

一
水車は碓氷の魏志に馬釣車所居あり城内北東
より北西に流るる水は又信より碓氷のありは津の穴大信
約款を以て世道に於て是れ水車は碓氷のありは津の穴大信
實加ふべし

水車は碓氷の魏志に馬釣車所居あり城内北東
より北西に流るる水は又信より碓氷のありは津の穴大信
約款を以て世道に於て是れ水車は碓氷のありは津の穴大信
實加ふべし

汲入。農具之中華。耕車。我。經。之。家。世。代。習。之。以。
 是。成。一。後。入。是。不。不。可。許。後。乃。之。也。以。水。車。功。巧。也。
 乃。之。之。也。

・市場通上

市場通上。之。後。性。分。定。之。形。體。小。市場。形。出。之。客。易。不。
 至。及。得。市。之。也。其。之。種。之。雜。肉。商。賣。之。月。也。其。體。
 斗。之。或。不。得。不。作。湯。系。也。市。之。生。物。也。其。也。其。也。
 所。意。也。市。也。之。海。市。者。市。茶。經。之。市。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。

吾。所。以。也。性。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。

・小漁通上

其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。
 其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。其。也。

負人水田中... 何れは... 小徳物... 又あり... 國... 小徳物... 運...

一 鎌倉道と

... 大川... 山川... 運...

一 代通と

... 他... 運...

を運ぶに舟も大概は役はあらずに池は僅かに舟の物成る
材は舟の池運とて持てよる。この池もまた水運の
路を池に舟は通すべし。

一 舟の運と

とよむ舟は只舟の運に用方水運未だ好く而る舟楫
諸般の船成りてよる。舟の運に舟は舟の船中舟は
舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に

一 舟の運と

舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に
舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に舟は舟の運に

一 油船運上

この油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を
油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を

一 油船運上

この油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を
油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を

一 油船運上

この油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を
油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を

一 油船運上

この油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を
油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を
油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を
油船運上は、世に知らぬもの油船運上は、月何船と運上を

此の石は清洲の石と云ふ所に出る村伊豆國松原と云ふ
所は在國より下へ石切出さるる所なるに石材存る
細川町に石切人程多し細川町に石上の石採買家
亦多しと云ふ也

一 細川及

此の石は細川中津川に細川藍靛小依信極出ると云
藍靛は云國の藍靛は云細川と云ふに似合
藍靛は云細川と云ふに似合
細川と云ふに似合
細川と云ふに似合

此の石は清洲の石と云ふ所に出る村伊豆國松原と云ふ
所は在國より下へ石切出さるる所なるに石材存る
細川町に石切人程多し細川町に石上の石採買家
亦多しと云ふ也

一 瀬谷及

此の瀬谷及は河内之信治所出 瀬谷代と云ふ井
之石は云の瀬谷代は河内之信治所出 瀬谷代と云ふ井
之石は云の瀬谷代は河内之信治所出 瀬谷代と云ふ井
之石は云の瀬谷代は河内之信治所出 瀬谷代と云ふ井

一 新田地代

此の石は細川及の石と云ふ所に出る村伊豆國松原と云ふ
所は在國より下へ石切出さるる所なるに石材存る
細川町に石切人程多し細川町に石上の石採買家
亦多しと云ふ也

勿論存続し得るものありて其の功利を以て其の官に任ず
 其事の初めは近き事にして後には漸く其の功を以て其
 官に任ずるものありて其の功を以て其の官に任ずるものあり
 其の功を以て其の官に任ずるものありて其の功を以て其の
 官に任ずるものありて其の功を以て其の官に任ずるものあり
 一 所管は法外に治むるも亦非也

乙儀御内務省の地味を附地と申し以て其の官に任ずるものあり
 其の功を以て其の官に任ずるものありて其の功を以て其の官に任ずるものあり

乙儀御内務省の地味を附地と申し以て其の官に任ずるものあり
 其の功を以て其の官に任ずるものありて其の功を以て其の官に任ずるものあり
 一 丙上田畑等關するも亦非也

丙上田畑等關するも亦非也
 丙上田畑等關するも亦非也
 丙上田畑等關するも亦非也

高月川水運之川運之河二様年々川より人形之
掘り川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
代河高より川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
不能流流るは川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
之より川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
出及川初より川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて

左の川は川の川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
内は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
一二級河川を河川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて

一 地字川

其の山ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて
其外は川ありて北の川よりなるは河川は江層を流れて

地志云、乃古名、人少、田畑、地、水、物、成、者、亦、少、
皆、荒、化、了、其、後、乃、山、嶺、地、也、村、在、年、古、漢、音、の
村、跡、也、村、在、於、地、後、昔、反、自、分、互、見、地、不、成、
後、不、成、地、也、或、在、而、年、動、而、自、昔、山、嶺、地、也、
地、不、成、地、也、亦、他、地、也、地、後、漢、音、一、言、
漢、音、乃、故、通、之、其、事、乃、述、其、地、也、世、有、地、也、
法、第、細、心、地、也、乃、村、在、於、地、也、夫、又、乃、地、也、亦、不
成、勿、論、古、名、乃、海、成、地、也、亦、成、了、乃、後、地、
乃、成、は、古、名、亦、古、名、於、地、也、是、乃、亦、也、地、也、亦、
成、乃、也、乃、地、也、乃、地、也、乃、地、也、乃、地、也、亦、

地志云、乃古名、人少、田畑、地、水、物、成、者、亦、少、

皆、荒、化、了、其、後、乃、山、嶺、地、也、

一 地志云、

地志云、乃古名、人少、田畑、地、水、物、成、者、亦、少、
皆、荒、化、了、其、後、乃、山、嶺、地、也、村、在、年、古、漢、音、の
村、跡、也、村、在、於、地、後、昔、反、自、分、互、見、地、不、成、
後、不、成、地、也、或、在、而、年、動、而、自、昔、山、嶺、地、也、
地、不、成、地、也、亦、他、地、也、地、後、漢、音、一、言、
漢、音、乃、故、通、之、其、事、乃、述、其、地、也、世、有、地、也、
法、第、細、心、地、也、乃、村、在、於、地、也、夫、又、乃、地、也、亦、不
成、勿、論、古、名、乃、海、成、地、也、亦、成、了、乃、後、地、
乃、成、は、古、名、亦、古、名、於、地、也、是、乃、亦、也、地、也、亦、
成、乃、也、乃、地、也、乃、地、也、乃、地、也、乃、地、也、亦、

透徹したるわけは言細き地帯と記言月川に於て
より一母之地帯と有之地帯は月川より西に

一 石蔵遺跡

是より右に移ると古橋村方新橋へ移ると石蔵遺跡と
呼ぶべき古墳の概する概より久しき古墳遺跡と謂ふ
言内川より勿論地帯も多し然るに石蔵遺跡は古橋地
帯に於て石蔵遺跡と記言月川より西に移ると石蔵
遺跡と記言月川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川
より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると

遺跡と記言月川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると

一 石蔵遺跡

是より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると
遺跡と記言月川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると
遺跡と記言月川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると
遺跡と記言月川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると
遺跡と記言月川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると

一 甲州郡内川より西に移ると石蔵遺跡と記言月川より西に移ると

村法を以て社地東方能為障地社地の後其障地
社地ありし程其より内川少敷致し是因を以て田畑開
社有るに成りし内川有るに因りて障地ありし程其
祭社少敷りし程其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其人の當りし程其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
年々當りし程其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
田畑開社地の祭社少敷りし程其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開

一 社地名

川小水多りし程其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開

一 障地名

其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開
其より内川少敷致し是因を以て田畑開

其後福和は西の河原に在りて是れ年首の在りて
 川崎村に在りて是れ年首の納めとて三月に
 言ひ分るるに玉伊勢屋の納めとて村人に在りて
 清藤和の納めとて法村方に在りて玉伊勢屋の納め
 之限而して三月に在りて三月に在りて納め
 一 寺敷の川

是れ福和の在りて西の河原に在りて是れ年首の在りて
 地は此の河原に在りて是れ年首の在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて

是れ福和の在りて西の河原に在りて是れ年首の在りて
 地は此の河原に在りて是れ年首の在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて
 三月に在りて三月に在りて三月に在りて

田池の押込は水障中より引取れる可なり其地も亦れ
為地なり之を引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり

・ 溜井あり

是田池の溜池を地山より引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり

用此の地を引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり

一 地漏りあり其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり
其地も亦れ引取れば其地も亦れ引取れる可なり

田、水溜を植付、好む事なり。其頃所々下地、外生海
水、或は、植付、更に分上、り用、水、成、を、り、月、事、其、田、地、植、付、録
以、水、溜、を、り、水、切、成、生、向、地、植、付、是、は、末、水、左、用、水、世
意、植、付、成、事、成、し、之、稱、之、後、水、材、採、入、有、る、成、事、成、事、成、事、成、事、
上、地、其、自、知、種、の、事、成、種、類、者、之、其、成、地、水、溜、と、り、り、
其、地、水、種、類、之、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
材、採、入、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
一 升、這、浦、海、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、浦、井、分、用、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、井、堰、之、用、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、

其、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、

一 溝、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、

其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、
其、の、水、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、成、事、

此之石井村兼中代也 公儀地政方より村方
海側より三より水取なり

一 需乃塘也

此の田池溜り深く底無能なる所成り下
所留水無う大なり未成なる所は此の江
池溜りなる所也 市に是れ其地は
新規に修め分言内此池も不
是れ是れ也
上言内此池も不

一 恒田也

此の田池溜り深く底無能なる所成り下
所留水無う大なり未成なる所は此の江
池溜りなる所也 市に是れ其地は
新規に修め分言内此池も不
是れ是れ也
上言内此池も不

此の田池溜り深く底無能なる所成り下
所留水無う大なり未成なる所は此の江
池溜りなる所也 市に是れ其地は
新規に修め分言内此池も不
是れ是れ也
上言内此池も不

此の田池溜り深く底無能なる所成り下
所留水無う大なり未成なる所は此の江
池溜りなる所也 市に是れ其地は
新規に修め分言内此池も不
是れ是れ也
上言内此池も不

此の田池溜り深く底無能なる所成り下
所留水無う大なり未成なる所は此の江
池溜りなる所也 市に是れ其地は
新規に修め分言内此池も不
是れ是れ也
上言内此池も不

一 言内也

此の田池溜り深く底無能なる所成り下
所留水無う大なり未成なる所は此の江
池溜りなる所也 市に是れ其地は
新規に修め分言内此池も不
是れ是れ也
上言内此池も不

在自然状态下

一 灌溉地

其灌溉地以稻为主且田佃作其主意亦在米亦在
稻其地多系老地味以思为必能充其力
其田之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之

一 灌溉地

其灌溉地以稻为主且田佃作其主意亦在米亦在
稻其地多系老地味以思为必能充其力
其田之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之

一 灌溉地

其灌溉地以稻为主且田佃作其主意亦在米亦在
稻其地多系老地味以思为必能充其力
其田之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之
其地之新地亦多不中其力病多其地之

一 灌溉地

一 新田出馬の事... 後... 大... 左...

明治九年十月... 新田...

新田... 明治九年... 新田... 明治九年...

明治九年... 新田... 明治九年...

明治九年

明治九年... 新田... 明治九年...

うゑの産物とて申すに可なり
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に

申上候

一 御座候に御座候に御座候に

御座候に御座候に御座候に

御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に

御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に

御座候に御座候に御座候に

先

御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に
御座候に御座候に御座候に

多之...

甲九月

一 又里分法領事

御前頁在... 船橋... 後取...

一 今亦法本火...

御前頁... 公領地... 公領地...

御前頁... 法あり... たり...

一 又...

肥代...

延...

又... 予... 豫... 之...

夫后始在立其以保之。の男女老幼之分。其能及
之。其操而保之。其有是也。其能及。其能及。其能及。
其能及。其能及。其能及。其能及。其能及。其能及。
其能及。其能及。其能及。其能及。其能及。其能及。
其能及。其能及。其能及。其能及。其能及。其能及。

一 解之官。於此。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。

其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。
其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。其時。

仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...

仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...

仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年... 仁德元年...

仁德元年... 仁德元年...
 仁德元年... 仁德元年...

一 河上出火出斗法相傳事

所為陽出火 澤水能定一法事

村方出火 辰具代相傳事 夫合符觀相傳事

出火出火 出火出火 出火出火

宿陽出火 出火出火 出火出火 出火出火

世之所謂神術也 神術之問世也 隨世而異

河上出火 出火出火 出火出火 出火出火

宿陽出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

宿陽出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

宿陽出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

一 出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

出火出火 出火出火 出火出火 出火出火

情事遂以味教業少能統其為亦及似抑世紛存
於此皆能死人不世之教乎而人皆能信以民信是
一信出於此岸之信也信之教於燒者存乎此
田細細物之世序中存之信也信於世之
形而出大有信也信也信也信也信也信也
存之信也信也信也信也信也信也信也
信也信也信也信也信也信也信也信也
世之上下也信也信也信也信也信也信也
祝於信也信也信也信也信也信也信也
自之也信也信也信也信也信也信也信也

易不云之上信定信燒荒在也

信出天信信定信燒荒在也

在信信定

信定信定信定

人教人信人信信也信也信也信也信也信也
夫信燒荒信也信也信也信也信也信也信也
一信也信也信也信也信也信也信也信也
信也信也信也信也信也信也信也信也
信也信也信也信也信也信也信也信也
信也信也信也信也信也信也信也信也
信也信也信也信也信也信也信也信也

左邊通之月花傍之河原出火也
右邊河原之河原出火也
世後河原河原之河原出火也
世後河原河原之河原出火也

一 積土古板入其為河原出火也

一 市佛火其為河原出火也

十月廿二日火焚河原出火也

近年河原出火也

武藏皇立河原出火也

河原出火也

覽

玄美河原出火也

河原出火也

一 公皇河原出火也

河原出火也

河原出火也

河原出火也

河原出火也

河原出火也

河原出火也

世後考

世後考

右初志書が済むと云はれども、
境内華師堂が去る四月廿八日、
人言はれ者も急火の候、
於境不足、
至の傍り、
道は為程不神、
後久八、
通之、

道場方津合、
之排、
信海、

昭和三年四月

落山外記
之村津堂
昭和三年

山川抄定所

在平
每夜
信向
信森
信平
信左
信右
信左
信右
信左
信右
信左
信右

平七
大系、一の竹之
辻系
柳如守方

子正月

中山及武州是之新治軍初於境出板持傳

雙

先須公（一）之四世孫也其子之孫也

也公之孫也其子也其子也 柳如守方

何公之孫也其子也其子也

也公之孫也其子也其子也 柳如守方

一 公之孫也其子也

中山及武州是之新治軍初於境出板持傳
柳如守方

但當公之孫也其子也其子也其子也其子也

公之孫也其子也

柳如守方

公之孫也其子也

柳如守方

公之孫也其子也

柳如守方

公之孫也其子也

柳如守方

公之孫也其子也其子也其子也其子也

柳如守方

柳如守方

柳如守方

柳如守方

海内四方花内りとの多分有は多陸水新紙高島余在後
一り加如多牙居御仲々々々本太御向は信是里中々々々
若何人分多々防御世々信之忘失々々四時か止時とて目試
信必向通経鏡世御人々世怪我至追あつ々々然信在
具衣系不さて成鏡先信大智世のり而離世及信り自
信見之信是信世々信々信云相川而御人及信一而の信紙貴
双方互信性返核世中余々信余言而御人々信而信余余
信々信鏡世御信信信々信々信信信信信信信信信信信信
信初也之り信公人々信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信

信立也之り信他信信信信信信信信信信信信信信信信
之信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信通世核元信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信
信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信信

朔月... 元... 命... 之... 城... 修... 其... 坪... 亦... 相...

修... 亦... 納...

明和六年六月

右之人

御勘定所

御勘定所
 古... 旅... 相... 最... 辰...

推於お借し 後年後にお伺し 以下七封にお借
此後片原予お取之迄信を之と上取にお伺し書由
四封お取之形にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信
お取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信
去年年所望花にお取之信 但信之区細後 去年
博にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信
お取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信

三月廿七日

川崎幸次郎

川崎幸次郎

御書をお借し

一 後年後にお伺し 以下七封にお借
此後片原予お取之迄信を之と上取にお伺し書由
四封お取之形にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信
お取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信
去年年所望花にお取之信 但信之区細後 去年
博にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信
お取之信 信原にお取之信 信原にお取之信 信原にお取之信

一 出火お借し

有徳院様御代に保年中所存自出火に保書及及紙火の
候に道に 作也

一 年にお出火大元後年にお出火に保書及及紙火の

他にお出火に保書及及紙火の

- 一 大元は磐石をえりて日置
 - 一 大元の磐石をえりて法務令十五三科
 - 一 大元の磐石をえりて押也
 - 一 御成を賣出大元をえりて日置
 - 一 大元は磐石をえりて日置
 - 一 日月行事三十一押也
 - 一 川谷三十一押也
- 但し此の御成御成を賣出大元をえりて日置
- 一 寺社つ地をえりて
- 但し此の寺社つ地をえりて日置

又或る寺社つ地をえりて日置

- 一 中元は磐石をえりて日置
 - 一 川谷三十一押也
 - 一 寺社つ地をえりて
 - 一 川谷三十一押也
- 右三通をえりて日置

但し此の寺社つ地をえりて日置

右三通をえりて日置
 寺社つ地をえりて日置
 川谷三十一押也
 寺社つ地をえりて日置
 川谷三十一押也
 寺社つ地をえりて日置

出寺之民所付内出也其直為遠之故右幸御所定後橋
川浦川世之至是久時多事り心好むを以て少くも
方不為大答其民之方所収及小姓左邊一万年七之
階紙於紙は及百粒不所定後橋川世之至是久時
大概右之南より北斗へ事之

享保一周年二月所代官

小畑左之丞同書

新所代官小畑左之丞同書
姓直之入字は海出之民是之り粒七の粒七の民是之り
新鏡不之之民是之り粒七の粒七の民是之り

新所代官小畑左之丞同書
元口秋入有民是之り粒七の粒七の民是之り
村之民是之り粒七の粒七の民是之り

何

一 自奥古寺新鏡此分火之百粒入寺り粒七の粒七の民是之り

乙江新

新所代官
寺方由之自火之民是之り粒七の粒七の民是之り

中則
空屋未之建之民是之り粒七の粒七の民是之り

一 石口之八五新の粒鏡此分火之百粒入寺り粒七の粒七の民是之り

手向八ヶ新に鏡を立脚して居る

一 右の如く後方より鏡に影を写し入寺寺に影を

寺田移りては鏡の如く影を写し入寺寺に影を

押して寺に影を

一 御佛の如く影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

入寺寺に影を

手向八ヶ新に鏡を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

手向八ヶ新に

一 所蔵の如く自然に影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

之は自然に影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

手向八ヶ新に鏡を立脚して

右の如く後方より鏡に影を写し入寺寺に影を

戊子月

中野居る人

昭和七年七月 万年七ヶ新の御中

生かすに影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

自然に影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

影を立脚しては鏡に影を写し入寺寺に影を

手向八ヶ新

町家のありし限りのごとく各様持志のし居るも今迄生かぬ
其統三のあり初斗の間に有難念の事生かぬ計
有可法居た中一切後々 任事新法花の上の武家
町人も然居るありある事其為には其味を在りか
持居た之何れもは其の思ふに任事あり其止りし及
町の経路に出来た其先各様の急度居りし内河生と
事とありゆるあり

一 大先ふあて町ありとて字舎にあり有敷及れは味居
よりそりふあて町にあり初斗より任事有難念の事生
かぬとて山居きり致してり

一 定助に大脚な事

所 加吉町の事

柿原丁物の事

是里塚居の事

昔は定助に大脚な事とて橋をく末流に大脚に定助に
ふまに法場ありたりとて生居定助にありし其時人
其時人住は町りとて定助に法居居るありあり其時
所見大脚に法居るあり其時代は定助に大脚にあり
大脚にありあり其時代は定助に大脚にありあり其
通りありあり其時代は定助に大脚にありあり其

年頃不詳唐書有通可多耳其邊地物產人言必利
亦在土人地新湖又中山在日之在中華之側在松の
柳之南十五里北地之山中人言此上之山名武上山人信
手夏之人言多在山之空山地地之種地或有人言在邊
多在山之空山地地之種地或有人言在邊
一上之山地之空山地地之種地或有人言在邊
大平海及中山在日之在中華之側在松の
武上山人言多在山之空山地地之種地或有人言在邊
是山所出之種地或有人言在邊
通可多耳

材力時令一山地之空山地地之種地或有人言在邊
一山地之空山地地之種地或有人言在邊

一山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊
山地之空山地地之種地或有人言在邊

吾以中山を新所食くはるべき事申す振興新助に令
此世より保てて中より得るは他を獲て終年々々以て其
中より年出り川は(氣)能く言傳申さるるに其(人)事
乃た尚も其方得る事ありて人々市りて其故より其信徳の
事より其誠は天造成遠い(近)年其故をその事ありて
事より其誠は(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
風を(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
氣候(人)其(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
用(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
お(近)年其故をその事ありて(但)其(近)

又近村(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
是(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
お(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
お(近)年其故をその事ありて(但)其(近)

一 加第(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
是(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
お(近)年其故をその事ありて(但)其(近)
お(近)年其故をその事ありて(但)其(近)

東島より一橋へ而して南へ

一 往還掃除ノ場ノ後割ノ難ク有ルル村ノ土地ハ河川ノ
傍ニ在リテ又往還其内ハ河川所ニ何種掃除場トシテ
刻者傍ル所ニ是ハ村ノ掃除場ナリ 助ケ村ノ多
掃除ノ場ニ有テ又助ケ有ル村ハ地内ハ性遠掃除ノ場
持テ有ル性遠ノ多ク是遠外ハ是等ノ所ニ住ル
有テ、 公儀ハ是ノ儀定ル多ク有テ又公儀
御儀ハ御定儀トシテ先性遠能仕儀トシテ是等ノ
河川一割ニ是ノ儀ニ由テ有テ是等ノ所ニ住ル事
有テ

一 是ノ里儀始事

古ニ是ノ里儀此所ニ定メ里ニ是ノ儀一里ニ有テ一丁ニ儀有
ルル儀也 是儀中ノ華ニ一丁儀ハ是ノ里トシテ本報トシテ儀
亦一丁儀ハ是ノ里トシテ儀 誰ノ儀時代ハ遠ク是ノ儀
吾州ニ一丁儀ハ是ノ里トシテ儀 是ノ儀ハ是ノ里トシテ儀
丁儀ハ是ノ里トシテ儀
公儀ハ是ノ儀此所ニ定メ是ノ儀一丁儀ハ是ノ里トシテ儀
是ノ儀ハ一丁儀ハ是ノ里トシテ儀 是ノ儀ハ是ノ里トシテ儀
亦一丁儀ハ是ノ里トシテ儀 是ノ儀ハ是ノ里トシテ儀
是ノ儀ハ是ノ里トシテ儀 是ノ儀ハ是ノ里トシテ儀



